

第3版のはじめに

この「科研費獲得の方法とコツ」の初版が発売されて以来、科研費の制度は毎年のように非常に大きく変わっている。採択率の増加だけでなく、研究費の繰り越し、研究費の基金化、合算使用による機器購入など、以前の科研費の制度からは考えられないくらい劇的に変化した。しかも研究者にとって科研費が使いやすいように制度が変化したのが特徴で、個人的には非常にいい制度になっていると思う。

このように科研費制度の変化が非常に速いため、羊土社のホームページには科研費に関するアップデートのコーナー「速報」を設けてもらって、できるだけ速くその内容を伝えるように努めてきた。しかし第2版の発行から2年経過して、この本の内容も最近の変更点を取り入れる必要があり今回の改訂になった。

また、この本の出版が契機となって、いくつかの大学で科研費申請のためのセミナーで話す機会をいただいたり、個別に申請書の相談を受けたりしたが、その経験から得られたことがいくつか今回の改訂に反映されている。

この本を出版して、多くの方から「この本のおかげで科研費に採択された」との言葉をいただいた。この本が少しでも役に立てたのなら、著者として非常に幸せである。また予想外に文系の方からも「役に立った」との感想を聞いた。自分でも文系の方の申請書をいくつか見せてもらったが、基本的には理系の申請書と書き方の要点は変わりないと思った。もちろん「この本を購入して参考にしたのだけど…」と残念ながら不採択になった方もいるだろう。しかし断言していいが、普段から一生懸命に研究活動を行い、申請書を改良していけば、絶対に科研費には採択される。不採択の方はあきらめずにぜひ次年度も応募して欲しい。

「実験医学」でこの本のもととなった連載を始めてから、私自身の科研費の戦績は3勝4敗である。こんな本を書いているのに勝率が100%でないのは情けないと思うが、いつまでたっても科研費を含む研究費に関する悩みは尽きない。しかし、応募する限り、ときには落ちることもある。気持ちを切り換えて自分の書いた文章をしっかりと読み返し、来年度の申請に向けての準備を整えたいと思う。

2013年7月

久留米大学分子生命研にて
児島将康